

20周年を迎えて

第十代会長 臼井 敏彦



同窓会大阪が発足してから20年になります。歴代の会長、会員の皆様のご努力の賜物と感謝申し上げます。

世界的にみて 社会情勢は極めて流動的です。個人にとっても不安な毎日ではないかと思えます。心の支え、芯をしっかりと持って行動することが大切です。その為にも同窓会大阪を1つの居場所としてご活用下さい。

“健康で 明るく 楽しく、温かく” のモットーを大切に、基本理念として続けてまいります。今一度 原点に立ち返りよりよい同窓会大阪にする為に会員の皆様のご支援、ご協力を頂きながら全力投球してまいります。

20周年は更なる進展の通過点！

第九代会長 中野博正



同窓会大阪が創立20周年を迎えました事をご同慶に思います。

本会は北摂地区に比べ設立のスタートが遅れましたが、爾後順調に発展して会員数では連協内で最大となり、更に事業内容及び活動状況でも着実に充実して来ていると言えます。

これも偏に先輩諸氏のご努力のお陰であると20周年の節目に改めて感謝と敬意を表する次第です。

しかしながら、昨今は新規会員確保問題、会員の高齢化等の取り巻く環境が変化して来ており、それらへの対応も迫られる事態に立ち至っております。

この様な状況下で、私もわずか1期だけですが会長に就任させて頂き少しでも現状改善を目指すべく、新規会員枠を広げる為の「賛助会員制」や財源多様化を期待する「寄付金」及び「広報誌の広告掲載」の導入を皆様と相談して図って参りました。

これらは未だ緒に就いたばかりで、今後も本会の活力を持続する為に時宜に応じた更なる対応と工夫をして行く必要があると申せます。

現在は「健康寿命」を少しでも延ばす事が広く叫ばれている超高齢者化社会に突入しておりますので高齢者が自助努力で活力維持をする事が益々期待される状況になっていると言えます。

人生の生きがいを求める為には、高齢者が絶えず社会との接点を持ち続けることが不可欠である事は申すまでもありません。

本会はその様な場を提供する得難い組織の1つである事は間違いのないと言えます。

又、本会は老大・高大・N高大・区民カレッジを修了した共通の絆を持ち合わせた集団でもありますので、今後もその“かけ橋”を引き繋いで行く事が要請されている組織でもあります。20周年を通過点として今後の更なる進展と持続を遂げる様に役員、会員一体となって頑張って行きましょう！

「大阪のいぶき118号」掲載

20周年によせて

第八代会長 高野 潔



振り返ると大阪府老人大学北部講座 25 期を修了、老大同窓会大阪支部に入会して“何か歌を”とすすめられて困ったことがあったのでカラオケのサークルに参加したのがはじまりでした。

その先輩に誘われて会の運営に係わることになったのですがそれは奇しくも平成 19 年の同窓会大阪の 10 周年記念行事が太閤園で開催されたときでした。

同窓会大阪が創立されたのは平成 9 年で以降 19 年まで、当時の同窓会母体は大阪府の主宰する「老人大学」で所在は吹田市山田でした。

あれから現在までの 10 年間の変化は 19 年・20 年の 2 年間は学校の所在を大阪府中央区谷町 6 丁目所在の社会福祉会館にかわり、名称も「アクティブシニア講座」となりました。そのときから「老大同窓会大阪支部」から同窓会連絡協議会（連協）が設立されたのを機に名称が「高齢者大学同窓会大阪」となって現在に至っています。

その後はご存知のように平成 21 年から運営母体が大阪府から NPO 法人「大阪府高齢者大学」にと公営から NPO 法人に代わり 8 年経過して現在 8 期生が修了します。

（因みに受講者数は老大大 9 教科 800 名〈H19〉、NPO 高大 62 教科 2600 名〈H28〉）

私は退職後、このように同窓会に入会してサークルや催しへの参加、そして運営に係わり多くの人と交わることで話し・学ぶことが多くありましたし、加えて外出の機会が増えたことにより大きな気分転換が出来て人生の後期に良かったなどの思いがあります。

今の地域同窓会の母体である老大大・高大も修了者の社会参加活動を謳っています。

同窓会大阪は“健康で 明るく楽しく 温かく”がモットーです。

参加により外出が伴いまさに社会参加活動です。高齢者が多くなり、また高齢化が進む中同窓会が居場所の一つになることは嬉しいことです。同窓会活動を続けてゆきましょう。

若い会員の発想と力が必要です。共に盛り上げましょう。

創立 20 周年おめでとう

創成期を顧みる

第三代支部長 野村 富雄



同窓会大阪も今年で 20 周年を迎える。おめでとう御座居ます。

心より祝意を申し上げます。

同窓会の設立の一人として 20 年間同窓会員を継続した者として 最高の喜びである。

同窓会の歴史は私個人の歴史と重なる事が多い。10 年一昔と言うがもう二昔も経ったのだろうか。感慨一入である。楽しい事も辛い事もあったが 今から振り返ると輝かしい連続であった。

先ず設立当時を振り返ってみると、大阪北部老人大学が吹田市の山田にあった。

そこで英語を勉強した。卒業すればそれぞれ地域の同窓会に入る仕組になっていたが 大阪市には未だ同窓会が無い事を知った。地元の吹田・茨木・高槻・豊中等は名門支部として君臨していた。

早速同期 18 期の坂東美野留君と相談して同窓会大阪支部設立へと動いた。17 期の小野一さんを支部長に擁立し、坂東副支部長、中村総務部長、野村事業部長の布陣であった。

老人大学の大講堂で各支部 支部長ご臨席の下で発足式を行ったのを覚えている。先輩支部に追いつけ 追い越せが旗印で一致団結した。発足当時は 30 人程であったが希望に満ち溢れての船出だった。その後 坂東美野留君が第二代支部長に就任された。彼は独断専行型のやり方で見事同窓会の礎を築かれた。学ぶ事は多い。

次に第三代支部長に私が推挙される事になった。前任者と同じ路線では面白くないので全員協調路線をとった。同窓会は会員皆様のものであると提唱し 会員皆様が参画し 楽しい親しみ易い同窓会を作ろうと持ち掛けた。「健康で 明るく 楽しく 温かく」とスローガンを掲げた。これは今も大阪支部のスローガンになっている。内に向っては講師を招いて健康講座・人生講座・生き甲斐講座を行い、外に向っては沖縄の老人大学との交流・地元有力支部との交流、東北親睦旅行、趣味の会作りに奔走した。この動きに賛同して戴いて会員数も 300 人 500 人と増えて行った。

我田引水になって見苦しいが第一期黄金時代を築き得たと思っている。

その後 老人大学は高齢者大学に変わって行く事になる。そして各同窓会は連携し連絡協議会の発足となった。私は支部長と兼務の形で連協第一代の事務局長を仰せつかる。吹田の奥谷さん、茨木の荒木さん、東部の中島さんと共に連協を発足する事になる。

これ以後については皆様をご存知の通りである。

いつの時代でも問題点はある。もうこれで良いと言う事はないからである。同窓会は常に先を見据えて行動しなければならない。

今年は丁度 20 周年と言う節目を迎える。同窓会のあり方はこれで良いのか。会の皆様は今 何を求めているのだろうか。原点に戻って考えてみる必要がある。

自分の事を言っても恐縮ではあるが私は今年で 88 歳を迎える。幸い今のところ健康である。しかし余命はそう長くないと思っている。今、自分は何をしたいのか。どの様に楽しんで生きて行けば良いのか。真剣に考えている。

最後に同窓会大阪が 30 周年 40 周年と永遠に続いて行く事を祈っている。

「大阪のいぶき 118 号」掲載